



たゞ一つの自由を

水野 仙子

男は女より一枚上

私は私が今、男は其體力に於ても其智力に於ても、女よりも一枚上であると斷言することに就いて、人と争ふことを避けたい。若し私のこの言葉に對して怒られる女性があつたならば、私はその人の前に、ともかくも私一人は男の力をより多く認めなければならぬ者であることを告白して退かうと思ふ。従つて無定見に私は男性を罵倒したくない。又、無暗に男を罵倒し冷笑し得る人の勇氣とその賢ささを羨まうとも思はない。

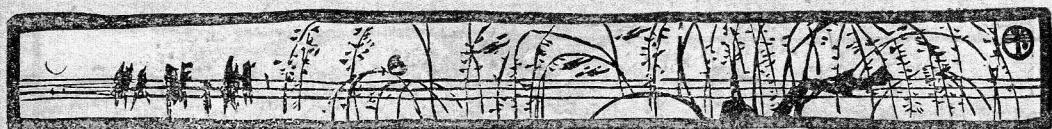
けれどそれは、男が皆必ずしも女より優れて居るといふのではない積りである。人格の下劣な男、無能な男、薄つぺらな男、さういふさまざまな種類に屬する憐むべき男が（こゝで蔑む

といふ言葉を慎みたい）女にもあると同様に數多くあるといふことを否めんとするのではない。けれどもそれらの男はすべて私の對象の外である。私は私の周圍に、十分に尊敬し得べき男性を見出すことに苦しまない幸福を有してゐる。

男に劣る處に女の力が在る

又私は徒らに女性を男性の下に置いて喜んで居る者ではない。男は男である。女は女である。男には男の生きる道があり、女には女の生きる道がある。男は男の力を有ち、女は女の力を有つて居る。男よりも女がその力量の劣るところに女の力がある。といふと奇言を娛むやうに聞えるかは知れないけれども、私は今自分の思つてることを言ひ現はす適當な言葉を知らない。私はたゞ男と女の優劣を價值の問題にしたくないと思つてゐる。

私の觀察は狭く、私の智識は淺く、世間一般の男に



對してどんな考へを抱いて居るかを自ら問ふたこともなかつた。私はたゞあるがまゝにあつて來た。かくなければならぬといふ眼をもつて男性を見て來なかつた。従つてそこに希望も要求もない。

理智を絶した要求

けれども私に直接の交渉ある者——それは父でも兄弟でも或は夫でも友人でもには、あつて欲しいとか、かうして欲しいとかいふ希望はあり得べきとである。しかしそれは個人々々に就いてあるから總括して私は斯くくの事を男に要求するといふ事にはならない。

最も近く密接に自分に對立して居る者は、戀人、乃至は夫である。けれども私はそれが男性を代表し、従つてそれに抱く要求が、男性一般に通じる要求であるとはしたくない。夫に對する妻の要求は理智を絶してゐる。我儘である、勝手である、實現されない要求である。尤もかういふ事を云ふのは、私極世間並の平凡な女であるからである。私の總の言葉は、些も豪くないそして磨かれてない一人の女から出立して居る。

私はこれぞといふ要求を持つて夫に對して居ない。それは要求ともいはいふべきものがないこともないが、それは際限のないもので、又不條理なことばかりである。右を望んで右が得られたら又左をと望むやうなものである。

體は頑健でない程度に強くあつて欲しい。何故といつて夫に病まれる位心細いやなものはないからである。悪いことをしないで金もうけが上手であるならば猶更結構であるが、月々のお小遣ひに不自由しない位であるならばいい。お酒も煙草も少しづついけて、甘えさせて貰へて、それで時々ぴりつとした小言をいつて欲しい。情深くてありながら情に負けないで、時によつては覆すことの出来ない強い意志を示す人、あらゆる私の我儘を許しながら、ぎゆうの音も出ないほどその我儘をとつちめて呉れる人であつて欲しい。遊び好きで勉強家で、精神的な人で……といふやうに、一々挙げたら際限がない。つまり弱くて強かれといふやうに私の要求は矛盾してゐるのである。

しかしそれらは要求といふよりも慾望であつた。理智を絶してゐながらしかも理智によつて制へることの出来るものであつた。

私はたゞ一つの自由を求めて居る。不眞面目でない意味の自由を、放縱と誤られない自由を、愛に根ざした自由を求めて居る。

投稿募集

文藝趣味の鼓吹を計らんが爲め廣く江湖讀者の投稿を募集し秀逸には賞を呈す。

書簡文 (題隨意)

コマ繪 (題隨意)

和歌 (春季)

俳句 (春季)

書簡文は一人一篇に限り、コマ繪は本紙半頁の大きさか、それより小にあらざれば採らず。和歌、俳句は一人にて十首又は十句までとす。

賞金は左の如し

書簡文、コマ繪は一等一名二圓以上五圓以下 二等一名本誌

八個月分 三等二名本誌半ヶ年分寄贈

和歌、俳句は一等一名本誌八ヶ月分 二等一名本誌半ヶ年分

三等二名本誌三ヶ月分寄贈

締切は毎月五日

注意

右投稿は總て東京市小石川區大塚窪町一番地新婦人社編輯部宛に發送あれ

新婦人第四年三月之卷 (毎月一回)

冊数	定價	郵税
一冊	二十五錢	貳錢
六冊(半ヶ年)	一圓四十錢	拾貳錢
十二冊(一ヶ年)	二圓七十錢	廿四錢

注文規定 本誌購讀申込の方は前金にて爲替を新婦人社宛送附せらるべし●郵券代用は一割増(但三錢以下の切手)

大正二年二月二十五日印刷納本
大正三年三月一日發行

編輯兼發行人 井上明三

印刷人 佐久間衡治

東京市京橋區西紺屋町二十七番地
印刷所 株式會社秀英舍

發行所 東京市京橋區宗十郎町十二番地
電話 新橋一九一六番
振替口座東京二四七〇番

編輯所 新婦人社編輯部
東京市小石川區大塚窪町一番地
電話 番町四一三三番

本誌廣告料

一等 表紙の二、四、アートペーパー 金五拾圓

二等 表紙の三、目次の前白紙の一、四頁 金參拾五圓

三等 アートペーパー刷寫眞版及本文對面、目次の前白紙二、三頁 金參拾圓

四等 色紙普通場所 金貳拾五圓

廣告切は前月十三日限の事